

## 「お魚里帰り大作戦」のねらい

独立行政法人水資源機構 琵琶湖開発総合管理所

独立行政法人水資源機構 琵琶湖開発総合管理所では、環境保全の取り組みの一つとして、滋賀県草津市新浜町の琵琶湖湖辺部に、琵琶湖在来のコイ・フナ類の産卵・成育の場とするビオトープ(通称:新浜ビオトープ)を平成20年8月より運用しています。これまで、実際に数多くの琵琶湖在来のコイ・フナ類の産卵・成育が確認されていますが、同時に外来魚の生息も確認されています。そこで、ビオトープが琵琶湖在来のコイ・フナ類の産卵・成育の場として十分機能するよう、毎年ビオトープを干し上げて外来魚を駆除し、在来魚を琵琶湖へ放流していましたが、平成24年10月に初めて一般の方への広報や学習の場として活用していただけるよう「お魚里帰り大作戦」と銘打ったイベントとして開催しました。今回は、イベント開催の経緯や考慮した点、実施結果について発表いたします。

発表内容：

1. 新浜ビオトープの概要

ビオトープの目的や構造の特徴、定期的な調査結果

2. 「お魚里帰り大作戦」の計画

「お魚里帰り大作戦」を開催することとなった経緯や実施計画、懸案事項について

3. 「お魚里帰り大作戦」の実施

「お魚里帰り大作戦」の実施状況や実施結果

4. まとめと今後の課題

※「お魚里帰り大作戦」では、在来魚としてギンブナの当歳魚385匹を始めとして6種469匹、外来魚はオオクチバスやブルーギル、カムルチーが合わせて84匹を捕獲しました。



「お魚里帰り大作戦」で捕獲された外来魚(左)と在来魚(右)